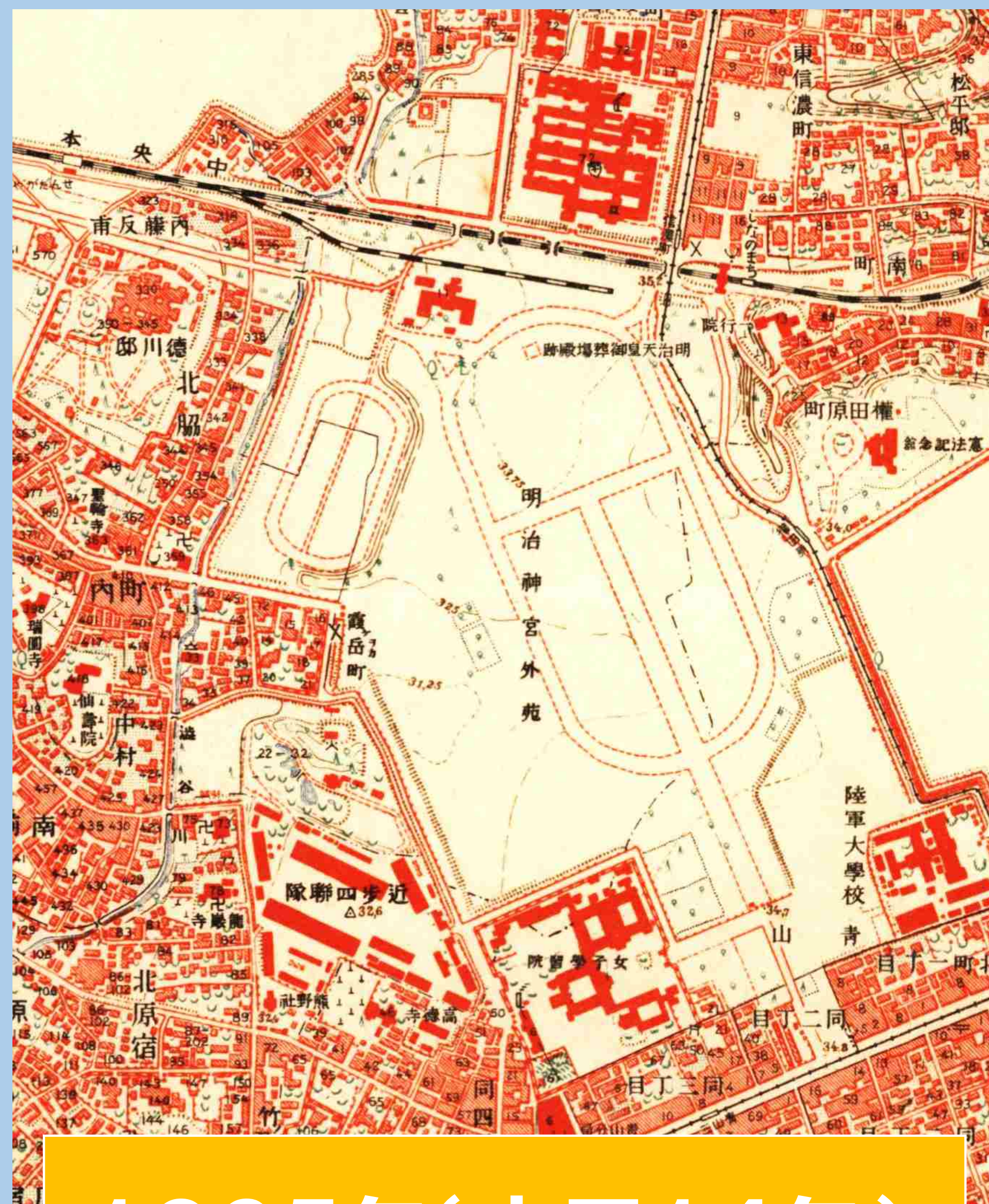


国立競技場 1

戦前の明治神宮外苑競技場



1909年(明治42年)



1925年(大正14年)



1937年(昭和12年)

1936年(昭和11年)



1944年(昭和19年)

明治神宮内苑の創建とともに青山練兵場の跡地に明治神宮外苑が計画され、この中に本格的陸上競技場として、明治神宮外苑競技場が1924年(大正13年)に完成しました。

1930年(昭和5年)には、アジアでの最大のスポーツイベントである極東選手権大会が開催されています。

この神宮競技場は、陸上競技のみならず、サッカー、ラグビーなども行われ、総合競技場として利用されていました。

1940年(昭和15年)のオリンピックは、東京で開催する予定でした。水泳競技は神宮外苑水泳場が選ばれていました。

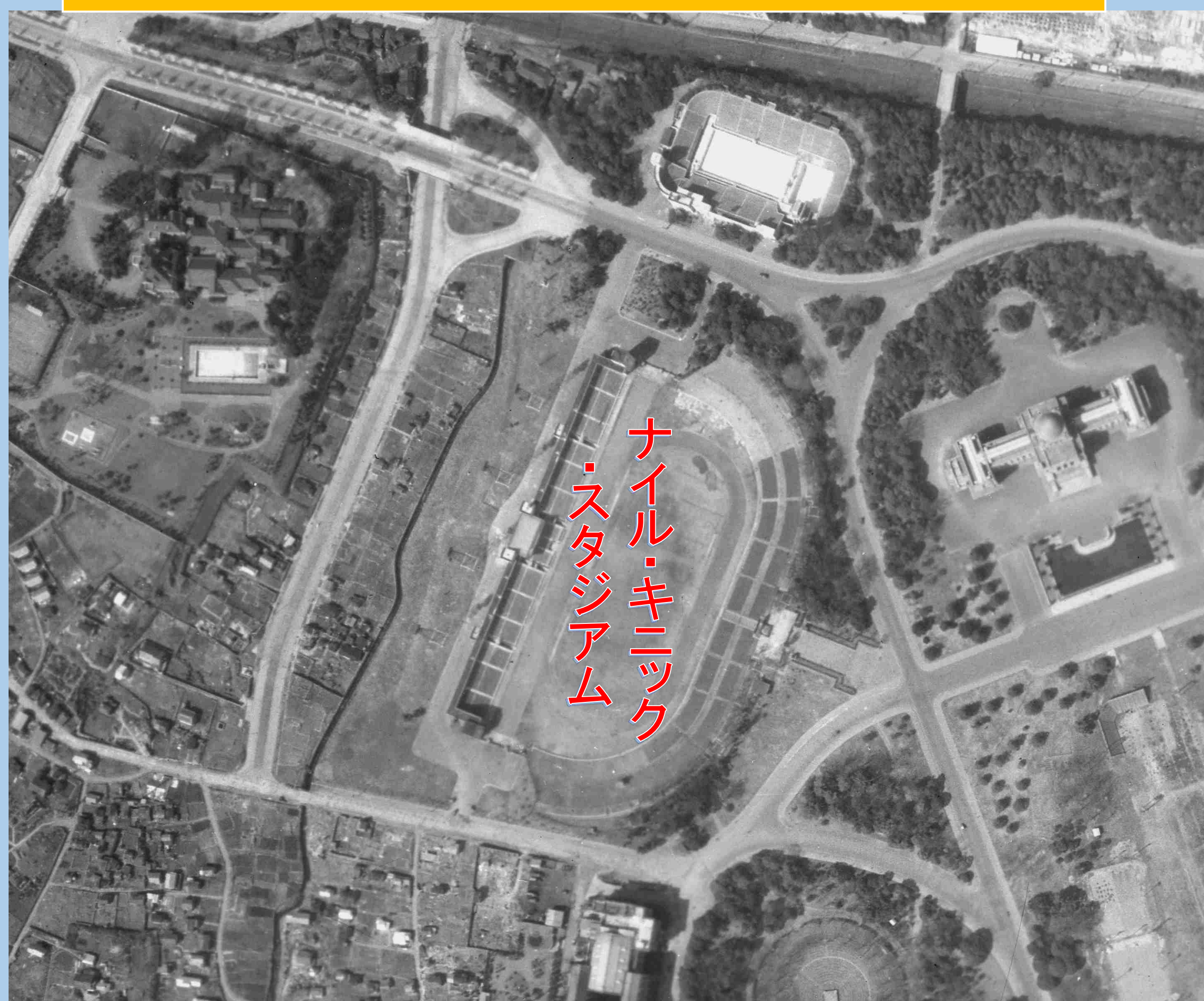
メイン会場は現在の駒沢オリンピック公園を予定していましたが、東京オリンピックは中止になりました。

第2次世界大戦中1943年(昭和18年)には、学徒出陣の壮行会が行われました。

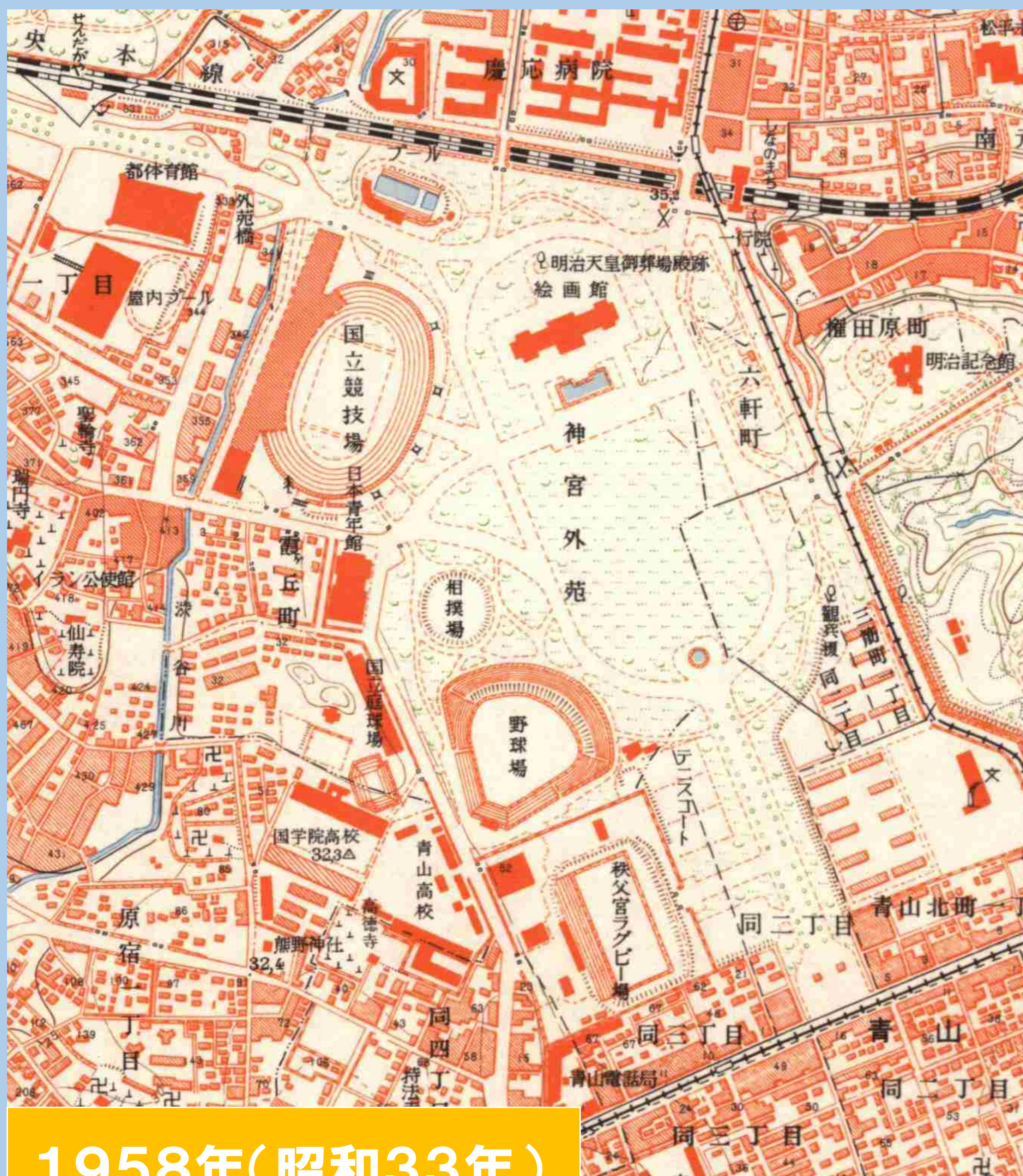
国立競技場2

戦後の国立霞ヶ丘競技場

1948年(昭和23年)



敗戦後、連合軍が1952年(昭和27年)まで『ナイル・キニック・スタジアム』という名称で使用していました。



1956年(昭和31年)



1958年(昭和33年)

1955年(昭和30年)東京都議会は、第18回大会の招致を満場一致で決議し、日本はオリンピック招致の声明を出します。

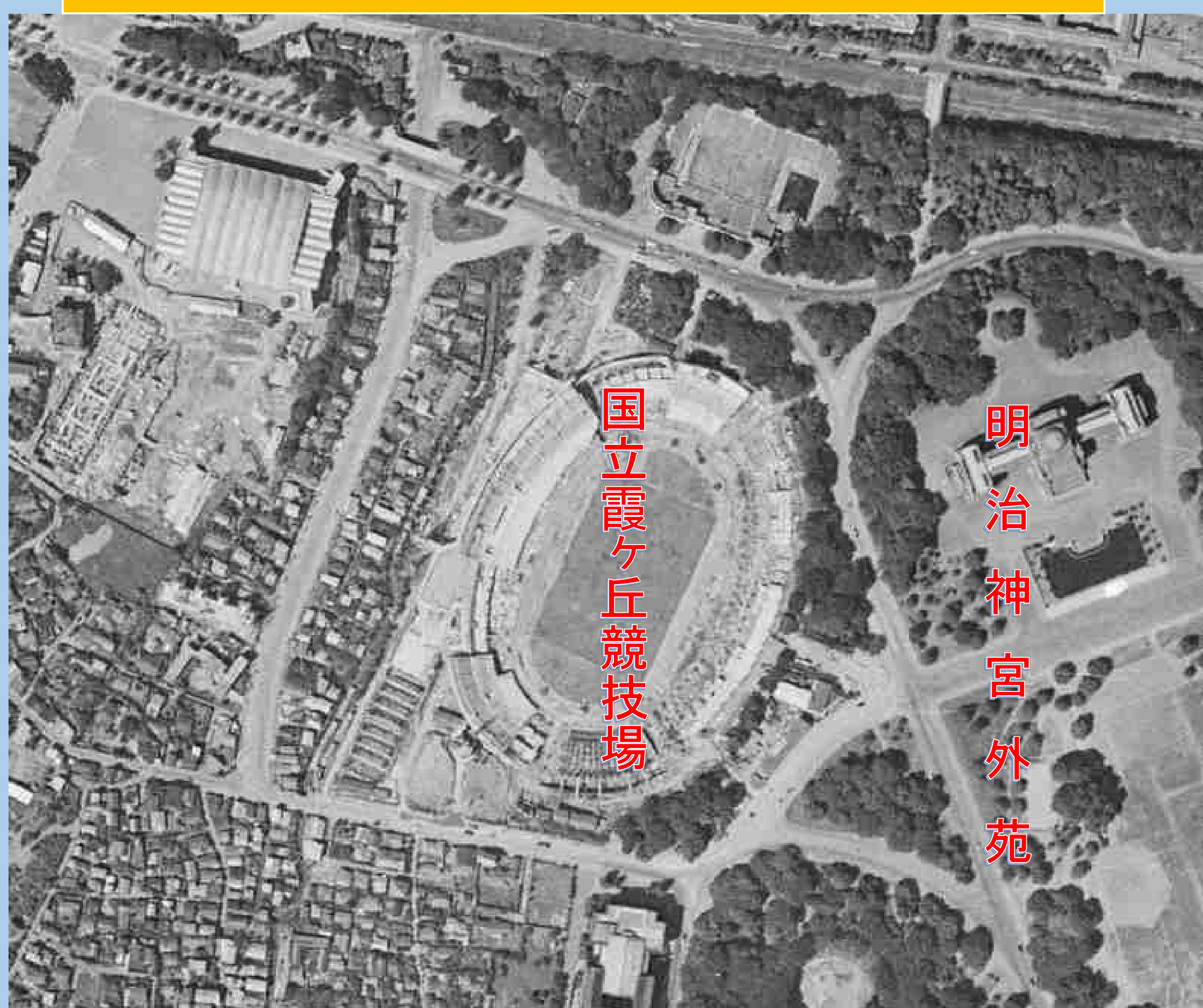
国際的なアピールとして1958年(昭和33年)アジア競技大会と国民体育大会の会場とすることが決まりました。

そのために1956年(昭和31年)に明治神宮から文部省に譲渡され「国立霞ヶ丘競技場」と名称が変わり新たに建設することが決まりました。

新しい競技場の設計とデザインは建設省関東地方建設局(当時)の職員であった角田氏と片山氏が中心となって建設されています。

1957年の写真は、「国立霞ヶ丘競技場」の建設時の様子が写っています。

1957年(昭和32年)



国立競技場3

東京オリンピックの頃の国立霞ヶ丘競技場

1961年(昭和36年)

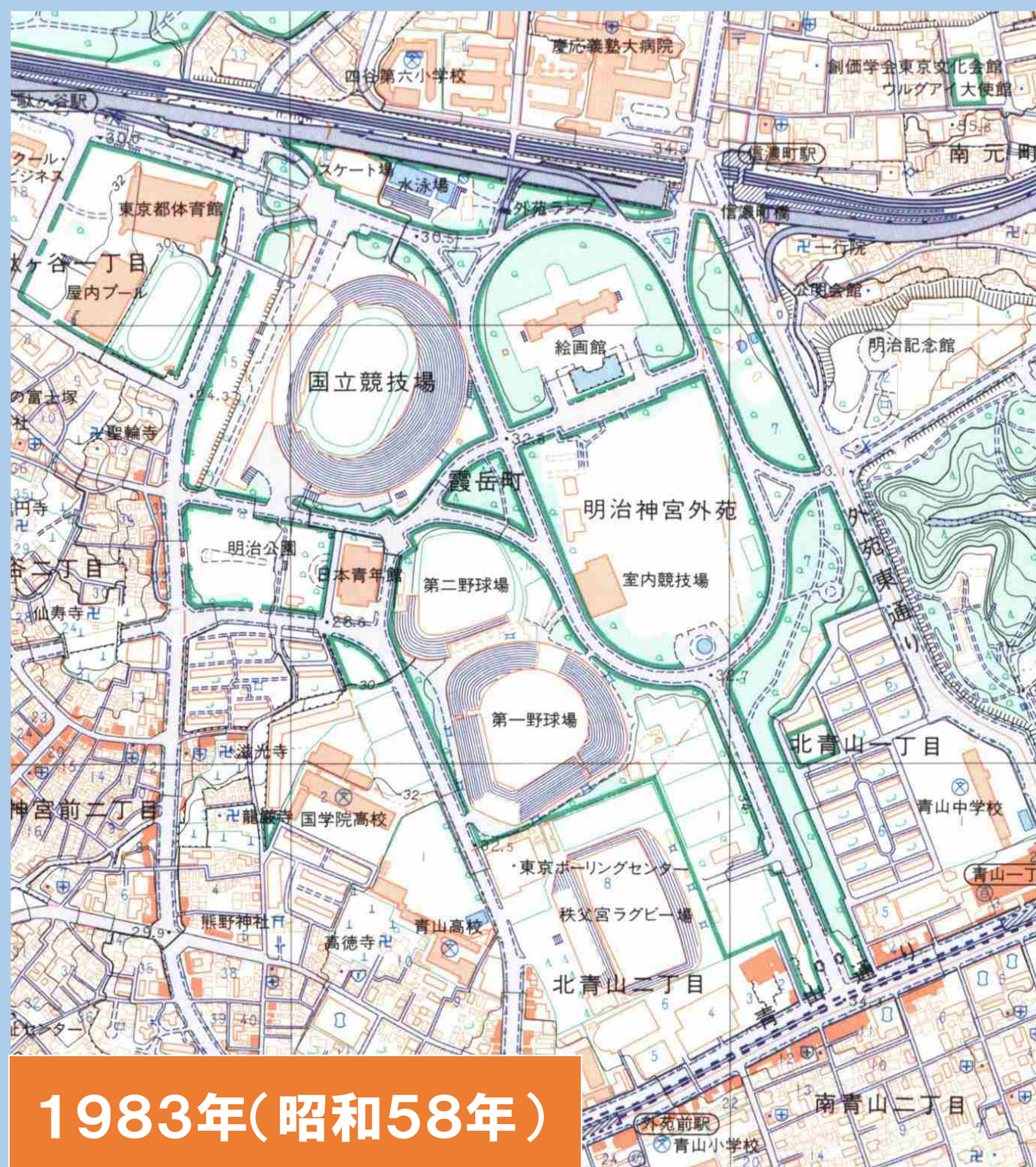


1961年(昭和36年)の写真は、1958年(昭和33年)、「第3回アジア競技大会」と「国民体育大会」が開催された競技場の姿です。

1964年(昭和39年)に開催された東京オリンピックのメインスタジアムとして使用されることとなり、これにあわせてスタンドの増築が行われました。

(1963年の写真に競技場右側のスタンド部分が白く写っている場所が増設部分です。)

1963年(昭和38年)



1975年(昭和50年)



1958年(昭和33年)からは日本陸上競技選手権大会が開催されるようになり、2005年(平成17年)まで断続的に会場として利用されました。

1980年(昭和55年)から2001年(平成13年)までは、トヨタ・カップの会場として用いられ、1991年(平成3年)には世界陸上競技選手権大会(世界陸上)が開催されました。

国立競技場4

国立霞ヶ丘競技場陸上競技場から国立競技場へ
(通称:国立競技場)

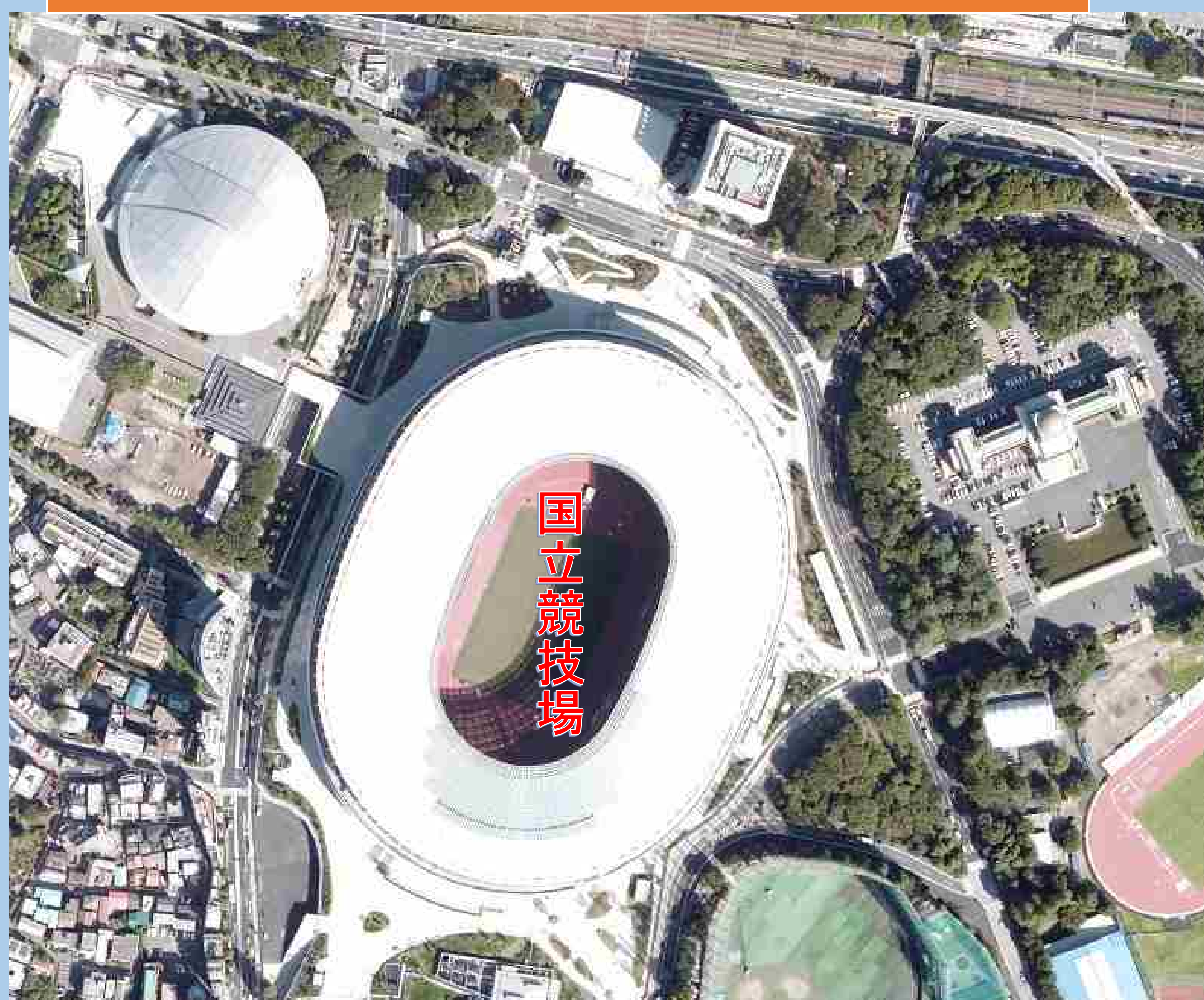
1992年(平成4年)



2017年(平成29年)



2019年(令和元年)



2017年の写真は、国立霞ヶ丘競技場が2015年から解体が始まり、新国立競技場が建設されている様子が写っています。

競技場では天皇杯全日本サッカー選手権大会、全国高校サッカー選手権大会、ラグビー大学選手権大会、ラグビー日本選手権大会、東京国際(女子)マラソン、サッカートヨタカップなどが開催されてきました。

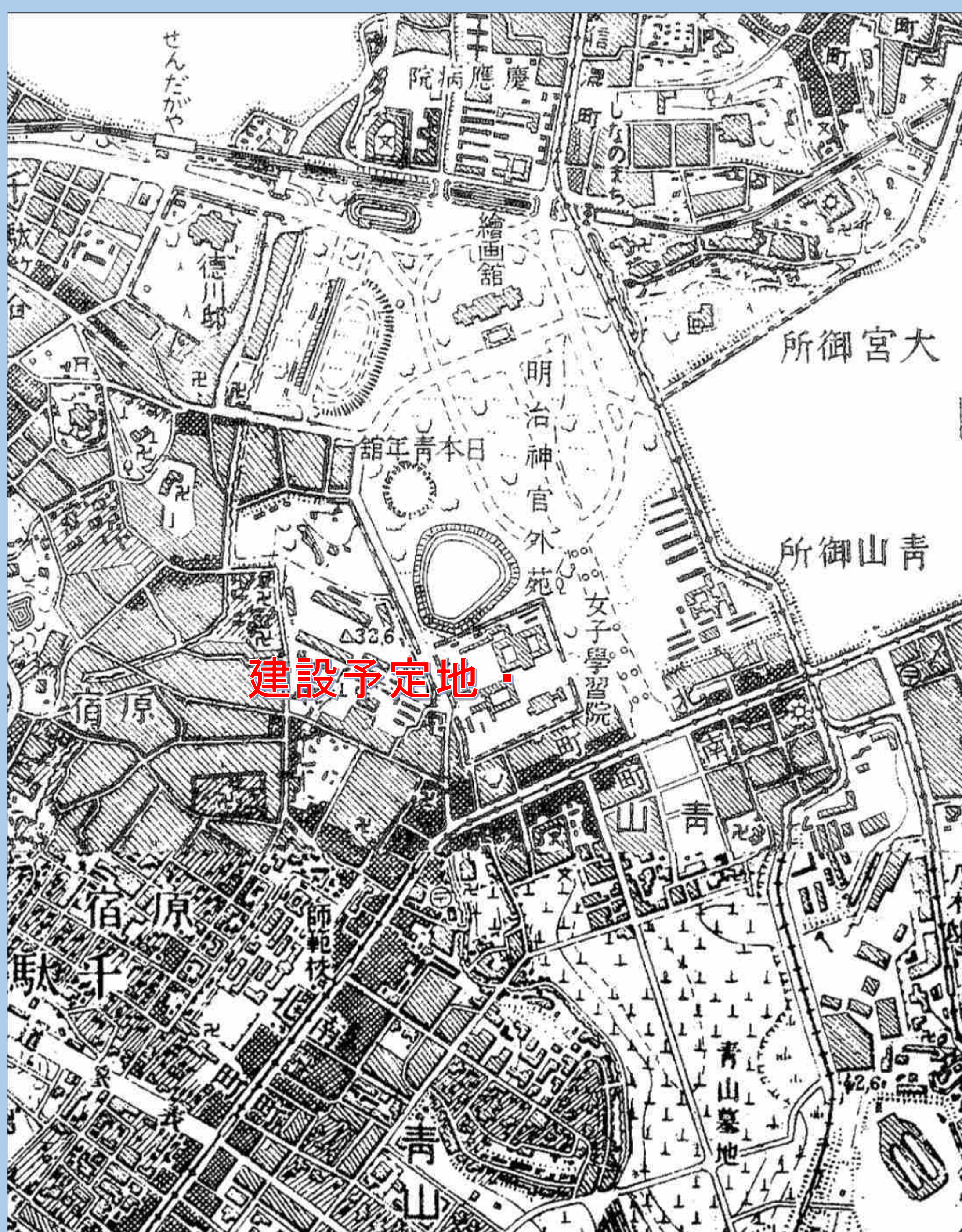
陸上競技のほかサッカー、ラグビーの試合も行われていましたが、1985年(昭和60年)に「国際青少年年」を記念したコンサート、1996年(平成8年)にオペラ歌手のコンサートの公演が行われ、その後も歌手などのコンサートが行われています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場として2019年(令和元年)11月に完成しました。

名称も正式に「国立競技場」となりました。

秩父宮ラグビー場1

1948年(昭和23年)



1945年(昭和20年)

秩父宮ラグビー場は、ラグビー専用競技場として1947年（昭和22年）に女子学習院跡地に「東京ラグビー場」として完成。

1953年（昭和28年）、財団法人日本ラグビーフットボール協会の名誉総裁であった秩父宮殿下のご遺徳を偲び「秩父宮ラグビー場」と名を改めました。

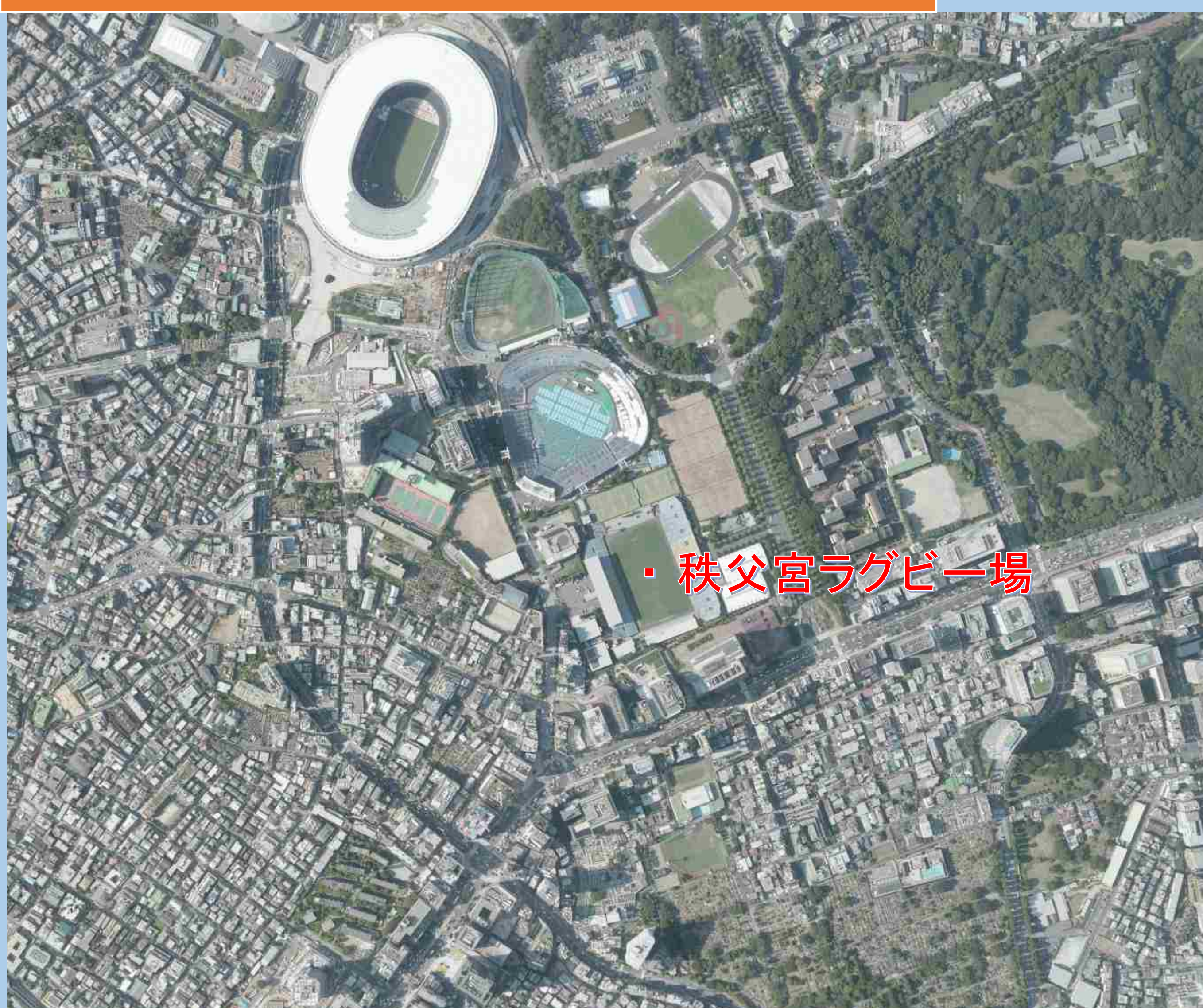
秩父宮ラグビー場2

1966年(昭和41)



1964年(昭和39年)、第18回オリンピック東京大会ではサッカー競技会場として利用されました。

2019年(令和元年)



現在も、ラグビーの国際試合、日本選手権、トップリーグ、大学選手権、関東大学対抗戦/リーグ戦などに利用されています。

秩父宮ラグビー場概要

敷地面積：35,459平方メートル

収容人員：24,871名(身障者席30席を含む)

芝生面積：10,515.5平方メートル(夏芝：ティフトン、冬芝：ペレニアルライグラスによる二毛作で通年緑化を実施)

東京体育館 1

1948年(昭和23年)



1945年(昭和20年)

東京体育館の敷地は、もとは徳川家正氏（徳川宗家17代）の所有地でした。その後、都制施行後の民生局が所管し「葵館」と命名し、錬成道場として使用しました。戦後、駐留軍将校宿舎・将校クラブとして使用され、接收解除後は、一時、東京都収用委員会庁舎として使用されました。1952年（昭和27年）末、体育館建設のため木造建築物を除去、鉄筋コンクリート造りの洋館2棟は位置を移動させたのち、翌年10月に東京体育館建設工事に着工、1956年（昭和31年）8月に完成、1957年（昭和32年）5月には屋内水泳場建設のため洋館も解体され、取得当時の建物はすべて姿を消しました。

東京体育館2

1966年(昭和41年)



東京体育館では、1964年(昭和39年)、オリンピック大会時に、メインアリーナで体操競技、屋内プールで水球が開催されました。

2019年(令和元年)



東京体育館は、大規模な競技大会に対応できる国内でも中枢的な存在で、メインアリーナは最大で1万人の観客が入場できます。

これまでも、卓球、レスリング、バレーボール、フィギュアスケートなどの世界選手権大会をはじめ、数多くの国際大会や全国大会が開催され、トップアスリートたちの熱戦を間近で観る貴重な体験ができる数少ない施設です。

今年のオリンピック・パラリンピックでは卓球会場となっています。



東京体育館メインアリーナを横から撮影

駒沢オリンピック公園 1

1956年(昭和31年)



1955年(昭和30年)

旧駒沢総合運動場は、1949年(昭和24年)の第4回国民体育大会の際にハンドボールコート(2面)とホッケー場(1面)が建設されました。野球場は1953年(昭和28年)完成の駒沢球場です。東映フライヤーズの本拠地として使用されました。

1958年(昭和33年)にバレーボールコートが、1960年(昭和35年)に弓道場が新設されました。

駒沢オリンピック公園2

1971年(昭和46年)

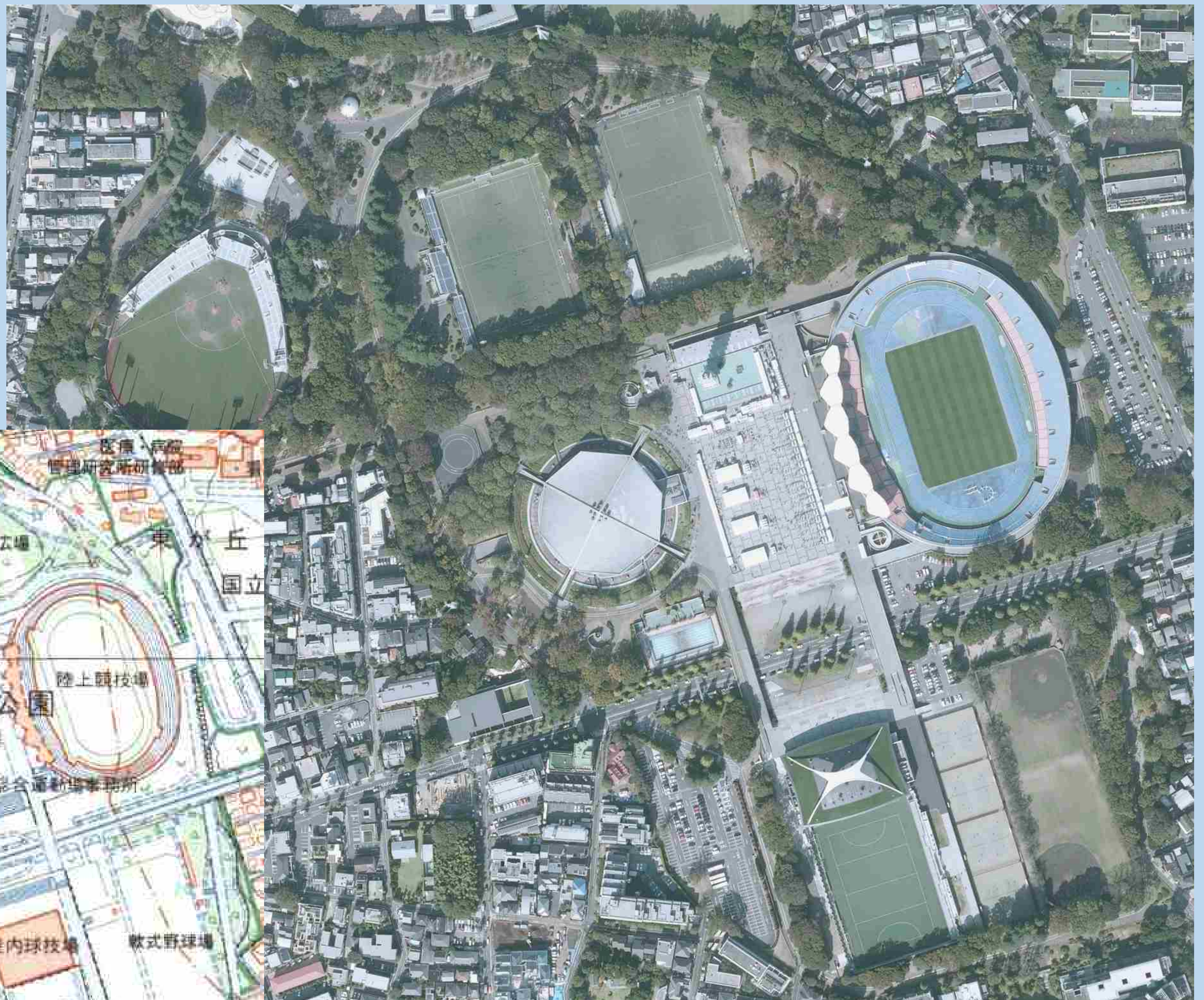
第18回オリンピック東京大会の第2会場として使用するため、改修整備が行われ、陸上競技場、体育館、屋内球技場、第一球技場、第二球技場、補助競技場の6つの施設が完成しました。

これらの施設は、1964年(昭和39年)のオリンピック大会の際に、サッカー、レスリング、バレーボール、ホッケーの会場となりました。



2019年(令和元年)

オリンピック東京大会以降は、軟式野球場、テニスコート、水泳場、硬式野球場、トレーニングルームの開設により、12施設の総合運動場となりました。



1999(平成11年)

国立代々木競技場 1

1948年(昭和23年)



代々木競技場の建設前は、連合軍占領下の日本にて設置された米軍居住施設「ワシントンハイツ」がありました。

1963年(昭和38年)



1963年(昭和38年)2月に建設工事が開始されましたが、工期はオリンピック大会まで18か月という非常に短い期間しかありませんでした。

1975年(昭和50年)



非常に短い工期でしたが、施工者、設計者、監理者その他多くの作業員の一体となつての努力により、ついに1964年(昭和39年)8月31日に完成しました。オリンピック大会開催まで残りわずか39日でした。

オリンピックでは、第一体育館は水泳、第二体育館はバスケットボールの競技会場として使用されました。

国立代々木競技場 2

2019年(令和元年)



完成以来半世紀を経ていく中で、利用者の安全を確保するとともに、構造物としての高い芸術性を損なうことなく、幾度の大規模な改修工事を行い、現在に至っています。



第一体育館を横から撮影



第二体育館（後方に第一体育館）